



株式会社タケトモ

医薬品、食品などの包装資材を製造・加工販売するメーカー。特に、PTP(Press Through Pack)包装用アルミ箔の製造に強みを誇る。平成23年度 新宿区優良企業「経営大賞・東京商工会議所新宿支部会長賞」受賞。

本社：東京都新宿区高田馬場1-33-5 タケトモビル
設立：昭和23年4月
資本金：10,000,000円
従業員数：25名
URL：http://www.taketomo.co.jp/

(取材日：2014年2月)

POINT

1 IT管理、セキュリティの課題を
デスクトップ仮想化で解決

2 Webブラウザ、iPadから
仮想デスクトップに接続

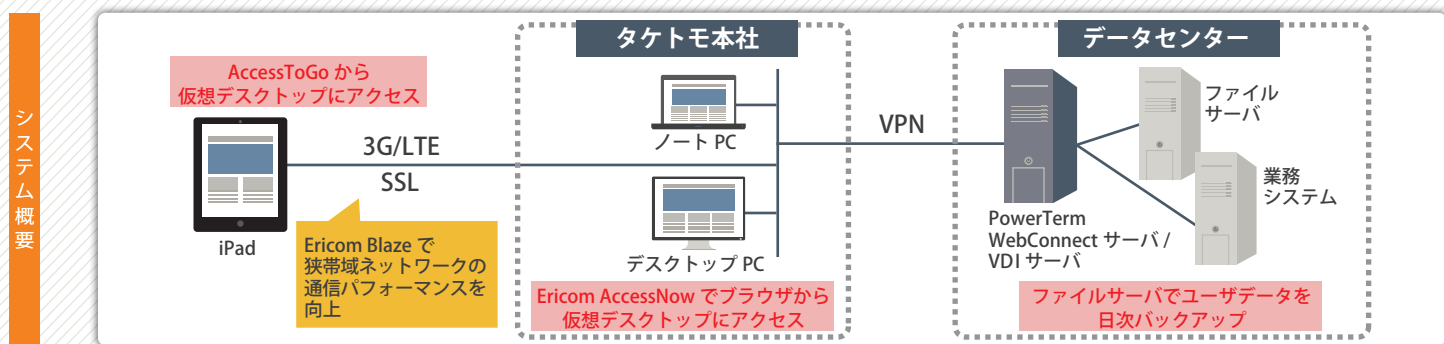
3 データセンターにVDIと
既存システムを集約、
耐災害性を強化

高い導入コストで諦めていた デスクトップ仮想化をEricomで実現 Webブラウザから仮想デスクトップに接続

医薬品向けPTP包装シートなど、専門技術を要する包装資材製造に強みを持つ株式会社タケトモ。PCの老朽化、モバイル端末の活用、セキュリティ対策といった課題とIT管理者の負担軽減を両立する方法を探していた同社は、Ericomを使った低コストのデスクトップ仮想化を採用。同社のITインフラは短期間のうちに刷新され、期待通りの効果を得た。

課題 → 対策 → 効果

- | | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 老朽化したPCの性能問題 ■ モバイル端末の活用促進とセキュリティ対策の両立 ■ 個人依存のデータバックアップ ■ 社屋に設置しているサーバの耐災害性 ■ IT管理者の負荷軽減 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 低コストで導入可能なEricomのデスクトップ仮想化ソリューションを採用 ■ データセンターにサーバを設置 | <ul style="list-style-type: none"> ■ デスクトップ仮想化導入でITインフラを刷新 ■ モバイル端末にデータを残さずセキュリティレベルが向上 ■ クライアント端末入れ替え時の管理負荷削減と迅速な業務再開 ■ データセンター利用による耐災害性強化とバックアップ集中化 |
|--|--|---|



PowerTerm WebConnect RemoteView

医薬品包装資材の製造で 独自技術を持つタケトモ

PTP包装という言葉をご存知だろうか。PTP包装とは、英語のPress Through Packageの略で、病院で処方される錠剤やカプセルを包むプラスチックと薄い金属から成る包装のことである。

株式会社タケトモは、このようなPTP包装資材を製造・販売するメーカーだ。医薬品向けの包装であるため、PTP包装資材には防湿性、透明性、成形性などが高く求められる。同社は特にPTP用アルミ箔の製造に強みを持っている。PTP包装資材の他、ラミネートフィルム、ICタグに配線されるアンテナ箔材などのニッチな分野で多彩な製品を手がけており、独自技術と専門知識を武器に活躍する企業である。平成23年度には、新宿区優良企業「経営大賞・東京商工会議所新宿支部会長賞」を受賞した。

ITインフラの状況と課題

タケトモ本社には、クライアント環境として30台のPC、サーバ環境として販売管理システム、営業支援システム、ファイルサーバが設置されていた。これらのITインフラの管理を担うのは、総務部 課長 阿部修氏である。総務部としての業務のかたわら、IT管理者の役割も担う同氏は、ITの専門家というわけではない。そのため、高い技術力を要する作業にはシステムインテグレータの支援を得てはいたが、1人で全てのPCとサーバを管理するのは容易ではなかった。

管理上の課題としては、PCの故障やリソース切れの際の入れ替えにおいて、代替機の選定プロセス、社内標準OSのWindows XPへのダウングレードなどの手間が発生しており、管理業務負担を減らす必要性を感じていた。

また、運用上の課題が2つあった。1つはPCの老朽化である。一部のPCは導入から7～8年が経過しており、リソース不足によるパフォーマンス低下が生じていた。OSの起動に30分かかってしまうPCもあり、電源を落とさずに使い続ける運用が社内でも常態化していた。もう1つはモバイル端末を持ち出す際の情報漏えいに対するセキュリティだ。営業担当者は出張も多く、商談に用いるパンフレットや提案資料を合わせるとその量は膨大になる。現場からの要望でiPadを導入すると、商談のプレゼンに活用する動きが広がり、資料の持ち歩きの問題は解決したが、さらにiPadからメールを使いたいという要望も出てきた。しかし、モバイル

端末の活用によって情報を手軽に持ち出せる利便性は、紛失や盗難による情報漏えいのリスクもはらんでいた。

Ericomを用いた低コストの デスクトップ仮想化提案で導入が現実化

PC老朽化とモバイルセキュリティ、さらにはIT管理の低減に向けてITインフラの抜本的な見直しをする必要があると阿部氏は感じていた。そんな中、京セラ丸善システムインテグレーション株式会社(以下、KMSI)からデスクトップ仮想化の提案があった。

阿部氏はデスクトップ仮想化のことを知ってはいたものの、遠い存在だと思っていた。

阿部氏 デスクトップ仮想化は、サーバで集中してクライアント管理ができるので、IT管理負荷削減やセキュリティ向上に有効なソリューションだと感じていましたが、私が知っていたデスクトップ仮想化製品はどれも高価で予算的に導入は現実的ではなかったため、本格的な検討は行っていませんでした。しかし、KMSIから提案されたEricomを使ったデスクトップ仮想化提案の見積りを見た時、想定していた価格感よりもかなり低く、これなら検討できると思いました。

低コスト、高セキュリティを評価し デスクトップ仮想化導入が決定

デスクトップ仮想化を導入すれば、今までPCに分散していたデータがサーバ側で集中管理されるので、情報漏えいのリスクを低減できると同時に、iPadからも仮想デスクトップに接続してメールをセキュアに利用できると阿部氏は考えた。

阿部氏 ここまでやれば安心という線はセキュリティにはありません。当社の場合、ITインフラを私1人で管理していることもあり、情報は端末側よりも、サーバ側で集中して守る方が理にかなっていると考えました。

そこで、同社の社長へデスクトップ仮想化の導入を提案したところ、社長自身も端末を持ち出す際のセキュリティリスクを懸念していたため、導入はスムーズに決まった。それと同時に、サーバを社屋からデータセンターに移設することも決定された。東日本大震災をきっかけに、阿部氏は自社内でサーバを管理することの災害時リスクを認識し、耐災害性を強化する必要があると感じてい

た。データセンターへの視察で24時間365日の安定稼働と震度7相当の地震に耐えうる免震構造システムに納得し、サーバの移設を決断した。

新たなITインフラの始動

正式にEricomの導入が決定されたのは、2012年8月。2カ月の導入期間を経て、新たなITインフラの運用が2012年10月にスタートした。仮想デスクトップへの接続は、PCのWebブラウザから行っている。具体的には、Internet ExplorerからEricom AccessNowのログインページを表示し、認証されるとブラウザ内にWindows 7のデスクトップが表示される。社員はそこから販売管理システムやMicrosoft Officeを利用している。ブラウザ側にはプラグインのインストールや事前設定が一切必要ないため、ユーザにとって便利だけでなく、管理者の端末管理負荷も軽減してくれている。

iPadからは、WebブラウザではなくEricom AccessToGoというモバイル端末向けに最適化されたアプリを利用して仮想デスクトップに接続している。BlazeというRDP通信の最適化技術が使われており、帯域の狭いリモートアクセスやWANアクセスに向いている。

導入から1年半を経たEricomの評価

導入から1年半。阿部氏は導入効果についてこう語る。

阿部氏 仮想デスクトップに変わったとはいえ、今まで通りの操作感で使えています。また、課題であった端末の配布や交換作業による負担は軽減されました。ユーザの利便性、セキュリティ、データ保全体制も総じて向上していますし、デスクトップ仮想化を提案してもらってよかったと思っています。

縁遠いと感じていたデスクトップ仮想化がEricomによって一気に現実化した。身近なデスクトップ仮想化ソリューションがタケトモの新たなITインフラを支えている。

